

「第5回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修（実践編）」開催の報告

連合会は2月7日～9日の計3日間、東京都（秋葉原）において、「第5回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修（実践編）」を開催し、23都道府県より55名が受講した。

本研修は、昨年10月に開催した「理論編」の修了者を対象に、グループワークでの議論や発表、演習を中心として、「理論編」で学んだ内容についてより実践的な能力を身に付けることを目的として開催されたものである。

なお、本研修については、2020年度においても引き続き開催することとして、検討を進めていく予定である。

本号では、本研修のカリキュラムを策定した、社会保険労務士総合研究機構「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修制度構築プロジェクト（年金PT）」の原佳奈子プロジェクトリーダーによる研修総括とともに、3日間の研修概要を掲載する。

研修の実施について

社会保険労務士総合研究機構

「公的年金制度及びその周辺知識に関する研修制度構築プロジェクト（年金PT）」

原 佳奈子 プロジェクトリーダー



今回の実践編にも全国各地から大勢の先生方にご参加いただきました。昨年10月に行った理論編は台風の影響を受け1日分の講義が後日ネット配信になりましたが、この実践編では、理論編で習得した知識をより実践

につなげていただけるよう、参加型でアウトプット中心の研修としました。具体的には、グループ形式のディスカッションでの意見発表や全員の前での模擬プレゼンなどの時間をできるだけ多くとりました。インプットした知識をもとに考え発表したり、他の参加者の意見や発表を聞いたりすることで、より多様で幅広い知識と実践力が身に付くようカリキュラムを組みました。

内容的には、個人向けと企業向けのどちらの場面にも対応できるよう、レベルアップを図るものとなりました。具体的には、理論編で学んだ知識をどう社労士業務で活かすかについてから始まり、ライブランをグループごとに作成し改善ポイントなどを議

論していただきました。また、確定拠出年金の導入企業の事例に触れていただき、さらに、企業年金といった退職給付制度などについて、経営者と話すために必要となる会計知識にも触れていただくといった幅広いものとなりました。最終日には、年金や老後所得確保といったテーマについて、若年層など一般の人に興味をもって聞いてもらうためにはどうしたらいいか、グループごとに工夫の仕方を話し合っていたいただき代表者に実演していただきました。

参加者の皆さんはすぐに交流を深められ、活気に溢れた明るい雰囲気の中、活発な意見交換・議論展開が行われました。

○研修参加者の声

参加者の方々からは、「グループワークで話し合いながら考えて発表までできたことは、自分の中でも成長ができたように思うので、とても良かったです」という声や「グループワークで、様々なスタイルで活躍されている社労士の方々のお話を聴くことができたのが大きな収穫でした。」などの声をいただきました。また、内容的には「3日目の講師の研修は、様々なつかみ方を聞くことができ、とても参考になりました。セミナー講師をさせていただくことはないと思う中、もしそのような機会があれば、今回の研修の内容は大いに活かせると思います。今後の社労士としての活動の範囲を広げていきたいと思います。」といった声などをいただきました。

○今後について

人生100年時代と言われる今後においては、老後の期間が長くなることで就労期間も長くなるのが予想されますが、リタイア後の期間も長くなるのが予想されます。公的年金は老後の生活の柱であり基本となるものですが、老後の生活の全てを保障するものではありません。これからの時代は老後の所得確保に向けて、企業年金や個人年金といった私的年金との組み合わせや早い時期からの将来生活設計・老後への資産形成が必要になります。実際に、法改正の影響などを受け、iDeCoなど個人年金の相談が出てきたり、中小企業向けの退職給付制度に関する質問も出てきたりなど、今後は社労士が受ける相談内容もますます幅広くなるものと思われます。

こういった状況を踏まえてこの研修は令和2年度も引き続き実施することを検討しています。その際には多くの方にご受講いただきたいと思います。

研修1日目 11:00~18:00

1-1. 社労士業務への活かし方 ～業務拡大と顧客獲得のポイント～ 11:00~12:30

埼玉県社会保険労務士会
望月 厚子氏



概要（抜粋）

1. 質問されたことに答えられる社労士になりたい
2. 現在の業務について
3. 世の中の関心はなんだろう？
4. 月ごとの話題をピックアップ
5. 検索ワードで連想
6. ライフプランのアドバイスでは？
7. データを活用してアドバイスに活かす
8. なぜ住宅ローンのアドバイスが重要なのか？
9. 住宅ローン解決方法の提案例
10. ねんきん定期便をセミナーに活用
11. まとめ

1-2. CF表作成と見直しポイント

13:30~18:00

東京都社会保険労務士会
川端 薫氏



概要（抜粋）

1. ライフプランとは
2. ライフプラン作成メリット
3. ライフプランの作成
4. ライフイベントと必要資金
5. ライフイベント表の作成
6. 事例1（30代前半）・事例2（50代後半）
7. 確定給付企業年金・確定拠出型企業年金



研修2日目 10:00~18:30

2-1. 確定拠出年金の導入事例 10:00~11:30

オリンパス企業年金基金
事務長
小山 稔氏



概要（抜粋）

1. 会社紹介
2. 退職金制度・DC制度の変遷
3. DC教育の過去の取組み状況
4. 現在の取組み
5. まとめ

2-2. 確定拠出年金導入事例から考える

12:30~13:00

東京都社会保険労務士会 原 佳奈子氏 (進行)

概要 (抜粋)

1. グループディスカッション
テーマ「企業事例を聞いて、感想、参考になったこと、ヒントとなったことなどについて、考えてみましょう。」

2-3. 確定拠出年金を利用した資産運用の考え方と従業員教育

13:10~15:10

日本商工会議所
DCプランナー研修企画委員
吉田 聡氏



概要 (抜粋)

1. 確定拠出年金を利用した資産形成
 - (1) 老後資金の必要額は？
 - (2) 資産形成の手段
 - (3) 確定拠出年金の特徴
2. 理論編の内容から
 - (1) 分散投資
 - (2) リバランス
 - (3) 損益率
3. キャッシュフローとリターン
 - (1) 投資信託について
 - (2) ファンド収益率
 - (3) 投資収益率
 - (4) 期待リターン

2-4. 経営者と企業経営を語り合うための会計知識

15:25~17:55

日本商工会議所 DCプランナー研修企画委員 吉田 聡氏

概要 (抜粋)

1. 企業会計の基本
2. 会計の文法

3. 決算書の構造とその見方
4. 財務分析の基本
5. グループワーク

研修3日目 10:00~16:00

3-1・2 公的年金制度とその周辺知識をわかりやすく伝えるために

10:00~16:00

東京都社会保険労務士会
原 佳奈子氏



概要 (抜粋)

- (1) わかりやすく伝えるための基本事項の確認
- (2) セミナーを想定し、グループごとに議論
・グループ代表による発表
- (3) 振り返り

アンケート結果の概要

●研修全体の評価 (回答者55名)

非常に良かった	23名	41.8%
良かった	23名	41.8%
普通	1名	1.8%
あまり良くなかった	1名	1.8%
良くなかった	0名	0.0%
無回答	7名	12.7%

●受講者の声

- ◆現状、単なる「年金相談」になってしまっていたため、ライフプラン、DC (イデコ) 等を含め、付加価値をつけ活かせる気がして、非常に勉強・意味のあるものになりました。
- ◆現場にいると、年金制度の誤解は本当に多くあり、社労士としてどうすれば良いのだろうという思いで参加しました。自分の勉強不足を感じることも多かったですが、今後更に学び続け、力をつけていきたいと強く思いました。

「第5回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修（実践編）」を受講して

埼玉会 内田 健治



私が、この研修を受講しようと考えたきっかけは、公的年金だけではなく確定拠出年金の役割とその目的を明確に理解したかったからです。

この講義を受講するために理論編と実践編を通して約60名が、全国から参加していました。初回の10月12日には台風が襲来し急遽講義が中止になってしまい、後日Eラーニング受講になってしまいました。

昨年8月、財政検証が発表されました。経済成長が一番緩やかな「ケースⅢ」の場合の2060年（令和42）年度には、所得代替率が50.8%になると考えられるとのことでした。現在、61.7%から考えると相当の減額になると思われます。

そこで、「いまできること」としてiDeCoを始める。それには、長期に分散して投資すること。そして、忘れてはならないことはいくつかの商品をバランス良く組み合わせることでリスク分散させ、年に1回程度のリバラ

ンスで見直す等が必要と教示いただきました。

また、企業型への伝える方法やセミナー講師をするときのノウハウなど、グループごとに発表する中で創意工夫したアウトプットした方法を共有化できました。

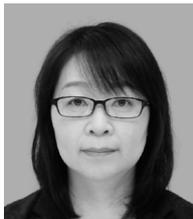
今回の年金法改正案では、適用拡大や在職老齢年金制度の見直し等が提起されました。65歳からは本格的な老齢年金の受給年齢になりますが、今後、少しでも豊かな老後を迎えるためには、健康であり続ける限り「生き甲斐、働き甲斐」を感じながら就労することが「人生100年」を迎えるこれからの人生においては、非常に大切なことではないかと感じられる講義でした。

私たち社会保険労務士は、企業が成長することや社会が発展することが一番の幸福をもたらすことです。年金制度を将来にわたって維持継続していくためには権丈先生が言っていた「Output is central」が重要であると認識しました。

最後に、この講義で御指導いただいた講師の先生方に御礼を申し上げます。

「第5回公的年金制度及びその周辺知識に関する研修（実践編）」を受講して

奈良会 信夫将恵



10月の理論編では台風に見舞われ、2月の実践編はコロナウィルスの脅威の中での受講となりました。

実践編では、理論編でインプットした知識を活用したライフプランの作成と、実際にどのように伝えるかのアウトプットの練習をしました。アウトプットの作業であるグループワークはたいへん有意義でした。5～6名のメンバーは社労士であること以外職業も職歴も千差万別で、自分の視点とは違う角度からの意見や提案が飛び交いました。2つのテーマについて、その講義への導入部分を5分間でスピーチをするという実践練習で、私は初めて大勢の方の前でマイクを握るという経験をする事となりました。

私が担当したのは「高校生への公的年金授業の導入5分間」でした。元々、窓口業務や営業に携わっていることから対話には慣れてはいたのですが、限られた

時間で大勢の人の興味を引くように話すのは難しく、発表を待つ間は緊張でどろどろと汗が流れてしまいました。営業先で使えるような話題をピックアップしてメモをとることを習慣にしていたので、実際にマイクを握っても言葉に詰まることもなく、普段通りに話すことができ、思いのほか楽しい時間を感じられました。

また、企業年金や確定拠出年金についての講義は、従業員への退職金規定をどのように導入し就業規則に規定していくのかを提案する道標となりました。退職金だけでなく、就業不能になった場合の従業員への保障についても経営者に提案できると考えております。

延べ9日間にわたるこの研修で学んだことを、今後の業務に活かせるよう更に研鑽を続けてまいりたいと思います。

最後になりましたが、この研修に関わってくださった講師の先生方、職員の皆様、共に学んだ皆様に深く感謝いたします。

2020年度春期 リバティアカデミー (社会人講座) 開講のご案内

お申し込み・お問い合わせ

明治大学リバティアカデミー

平日 10:30 ~ 19:00

土曜 10:30 ~ 15:30 (日祝休業)

TEL 03-3296-4423

FAX 03-3296-4542

Mail academy@mics.meiji.ac.jp

URL https://academy.meiji.jp

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学駿河台校舎

アカデミーコモン 11階



社会保険労務士
総合研究機構後援講座

人を大切にする働き方・働かせ方

講座趣旨

いま国をあげて「働き方改革」が叫ばれています。それは経営者による従業員の「働かせ方」を変えていくことです。長時間労働の解消、正規と非正規の待遇格差の是正などの課題が目前に突きつけられています。それだけではありません。AIやIoTなど新しい技術が広がり、少子高齢化社会に突入し、新しい産業と新しい多様な労働者が注目されるなど、経営環境が大きく変貌してきています。

同時にまた市場競争は激化しているわけですから、これまで以上に合理性と生産性の向上に努めることが必要になっています。どうしたら良いのでしょうか。

AIやIoTが入ってきて企業競争力の源泉が従業員の力量であることには変わりません。あえて違いを言えば、効率性や経済性という視点だけではなく、社会と人権という視点が不可欠だということです。このような考え方にたって、「人を大切にする働き方・働かせ方」とは何かを考えます。

講座概要

コーディネータ	黒田 兼一 明治大学名誉教授
曜日	水曜日
時間	19:00~20:30
定員	30人
回数	全7回
受講料	一般：24,500円(税別)
教材	オリジナルレジュメ

回	講義月日	内容	担当講師
1	5/13 (水)	「働き方改革」時代の人事労務管理 いま必要な「改革」は、効率性と経済性一辺倒ではなく、従業員が意欲をもって働きがいを感じるような「働かせ方」です。	黒田 兼一
2	5/20 (水)	今なぜ「テレワークか」ーテレワークによる働き方・働かせ方ー テレワークとはどのような働き方・働かせ方か、メリット・デメリットを踏まえ、導入時の留意点をお話します。	川澄 佳美
3	5/27 (水)	AI、RPAで変える働き方 日本企業の3割がRPA(ロボティックプロセスオートメーション)を導入するようになっていきます。RPAはやがてAI(人工知能)へと進み、多くの人の働き方を変えていきます。その時に「強み」として残るものは、そして誰もがこぼれ落ちることのない働き方はどのようなものなのか、いっしょに考えていきたいと思います。	山崎 憲
4	6/3 (水)	ハラスメント最新事情ーなぜ起きる、どう対処するー 最近も様々な事件が繰り返され、その都度取りざたされるハラスメントですが、その言葉の意味は十分に理解されてはいません。果たしてあなたの理解で大丈夫でしょうか?最新事情で、もう一度あなたの理解を確かめてみましょう。	金子 雅臣
5	6/10 (水)	実践!介護事業所の人事労務課題とその解決策 介護職員処遇改善加算に象徴される複雑な人事労務課題の解決事例を具体的に解説します。	三島 幹雄
6	6/17 (水)	職場のメンタルヘルスと復職支援 予防医学の観点から、精神疾患に関する知識や対応と復職支援に向けた取り組みについてお話します。	岩元 健一郎
7	6/24 (水)	どう変わる日本の雇用と日本の仕事 これから日本の働き方はどう変わるのか?日本企業の雇用と仕事のこれまでとこれからを、人・組織・経営の視点から考えていきます。	田村 豊

コーディネータ・講師紹介



くろだ けんいち

黒田 兼一

明治大学名誉教授

明治大学大学院経営学研究科修了。専門は人事労務管理論。自動車産業を中心に、戦後日本企業の人事労務管理を研究。1992年から1年間イギリスに、2002年から2年間アメリカに滞在し、現地日系企業の人事労務管理と労使関係を調査。現在は日本の人事労務管理の「これまで、いま、これから」に焦点をあてた研究に取り組んでいる。最近の著書に『戦後日本の人事労務管理』（ミネルヴァ書房）、『フレキシブル人事の失敗』（旬報社）、『人間らしい「働き方」・「働かせ方』（ミネルヴァ書房）など。



かわすみ よしみ

川澄 佳美リバークリア社会保険労務士事務所
特定社会保険労務士

大手建材メーカーで長年人事労務全般業務に携わる。2010年、在職中に明治大学大学院経営学研究科を修了。ワーク・ライフ・バランスの視点で女性継続就労について研究をする。その後、社会保険労務士事務所勤務を経て、独立開業。中小企業を対象に、人事労務相談、人事評価制度設計、助成金申請等を中心に相談業務を展開している。2018年より東京テレワーク推進センター専門相談員として、さまざまな企業からのテレワーク導入に関する相談を受けている。



やまざき けん

山崎 憲(独) 労働政策・研修機構
調査部主任調査員

2010年から2017年まで中央大学法学部兼任講師。1967年生まれ。博士(経営学)。2003年から2006年に外務省専門調査員として在デトロイト日本国総領事館に赴任。著書に『働くことを問直す』（岩波書店、2014年）、『デトロイトウェイの破綻—日米自動車産業の明暗』（旬報社、2010年）、『フレキシブル人事の失敗—日本とアメリカの経験』（黒田兼一との共著、旬報社、2012年）、『仕事と暮らしを取りもどす—社会正義のアメリカ』（遠藤公嗣、筒井美紀との共著、岩波書店、2012年）ほか。



かね こ まさおみ

金子 雅臣一般社団法人職場のハラスメント研究所
代表理事

元東京都職員、産業労働局などの勤務を経て、現在は「職場のハラスメント研究所」所長、成蹊学園人権委員会委員、葛飾区男女差別苦情処理委員会委員、日本教育心理学会スーパーバイザー。これまでに、お茶の水女子大学人権委員、千代田区女性問題協議会委員、港区男女差別苦情処理委員会委員などを歴任。現在、「ガバナンス」「労働法研究会報」などに連載執筆中。セクハラ、パワハラ、ホームレス、リストラ、フリーター、職場のいじめ問題などの職場ルポを各種雑誌に執筆。



みしま みきお

三島 幹雄サードブレイス社会保険労務士法人
特定社会保険労務士

獨協大学外国語学部卒業。大手訪問介護企業の人事責任者を経て、2007年、29歳で社会保険労務士事務所を開業。介護企業での経験をベースに介護事業者に対し実践的なアドバイスを提供している。介護職員処遇改善加算を算定するために必要なコンテンツ(制度設計、規程、研修管理、能力評価等のツール)を書籍とCDにパッケージ化し販売するなど、独自のサービスを展開し好評を得ている。



いわた けんいちろう

岩元 健一郎国立精神・神経医療研究センター病院
公認心理師・精神保健福祉士

明治大学商学部卒業。IT企業と専門商社を経て、EAP(Employee Assistance Program) サービス提供会社やリワーク(休職者の職場復帰支援) 機関にて労働者の心の健康に関わり続ける。2016年より国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター、2018年より同センター病院精神リハビリテーション部臨床心理室にて認知行動療法を用いた職場復帰支援に取り組んでいる。



たむら ゆたか

田村 豊愛知東邦大学経営学部教授
明治大学大学院経営学研究科兼任講師

明治大学大学院経営学研究科修了。博士(経営学)。専門は人事労務管理論、生産マネジメント論。スウェーデン企業の経営戦略と労使関係の相互関係について日本と比較し、日本企業の組織力の強さについて研究を進めている。著書に『ボルボ生産システムの発展と転換』（多賀出版）、『中小企業の経営力とは何だ』（中部経済新聞社）など。

学術研究団体等の大会・研究会開催のお知らせ

●日本労務学会 第50回全国大会

日時：2020年7月17日(金)～7月19日(日)

会場：神戸大学六甲台第1キャンパス六甲台本館(第1学舎)

統一論題：日本の人事労務研究の将来展望

Prospect of Human Resource Management Studies in Japan

※費用・申込方法・テーマ等に関しては、日本労務学会のホームページをご確認ください。

詳細が決まり次第、順次ご案内して参ります。

(ホームページ <http://www.ibi-japan.co.jp/jshrm/index.html>)

●労務理論学会 第30回全国大会

日時：2020年6月12日(金)～6月14日(日)

会場：福岡大学 七隈キャンパス

※費用・申込方法・テーマ等に関しては、労務理論学会のホームページをご確認ください。

(ホームページ <http://jalmonline.org/>)

●日本社会保障法学会 第75回大会

日時：2020年5月16日(土)・17日(日)

会場：佐賀大学本庄キャンパス

費用：1,000円(各日)

申込方法等：大会当日「傍聴受付」で手続きしてください。手続きは各日で必要です。

報告者のレジユメ等と一緒に傍聴用のプレートをお渡しいたします。

※テーマ等に関しては、4月以降に日本社会保障法学会のホームページをご確認ください。

(ホームページ <http://www.jassl.jp/>)

●社会政策学会 第140回春季大会

日時：2020年5月23日(土)・24日(日)

会場：東京都立大学

※費用・申込方法・テーマ等に関しては、社会政策学会のホームページをご確認ください。

(ホームページ <http://jasps.org>)